

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902603		
法人名	有限会社 ヘルプ		
事業所名	グループホーム 福寿草 (1F)		
所在地	旭川市永山2条23丁目1番22号		
自己評価作成日	平成 27年2月15日	評価結果市町村受理日	平成27年5月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902603-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ここは我が家だ」という理念に基づいて入居されている方と職員は信頼関係を築いている。母体の医療機関とは24時間体制で医療連携がとれている。体操やレクリエーションを入居されている方のADLの維持を目標に楽しみながら行っていたい。誕生日や行事の際は、入居されている方の好きな料理やケーキを用意し、乾杯したりして施設から脱却し「我が家」と念頭に置いている。また、散歩をしたり、外食へ行ったりと個別のケアも実践している。町内会、旭川大学、地域包括支援センターとの連携もとれており、認知症サポーター養成講座や、地域一般開放、地域セミナー講師など、外部へ向けた地域貢献も行っている。これらの取り組みを福寿草通信にのせ、地域住民、町内会の皆様への理解を深めるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(地域との交流、地域貢献)
地域の清掃活動、地域学童の通学見守り、幼稚園のお遊戯会・大学祭見学などで地域と交流し、実習生の受け入れ、認知症サポーター養成講座、認知症に関するコラムを掲載した福寿草通信を町内会に回覧するなど認知症の人の理解を深めるよう努めている。
(自然を活かした外出支援)
交通の便の良い自然環境に恵まれた立地環境を活かした白鳥見学、田んぼアート見学、花見、紅葉見学など四季を肌で感じる事が出来る外出支援に取り組んでいる。
(安心安全な日常)
母体の医療機関と24時間医療連携がとられ、「ここが我が家だ」をモットーに、体操など適度な運動や食事のあり方など利用者個々の健康管理に配慮がなされ、利用者は安心して過ごしている。
(法人職員内部研修)
職員の資質向上と事故防止に常に心がけ、年間の研修計画を立て、職員が受講しやすい環境作りをして、全員でレベルアップを目指し、サービスの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「ここは我が家だ！」を念頭に全スタッフが理念を共有し日々のケアで実践出来る様ホールの目立つところに提示している。	「ここは我が家だ」をモットーに、「普通の家で、普通の生活で、普通の人生を」など7か条からなる運営理念を掲示し、職員会議、内部研修などで共有して、迷うことがあれば常に理念に立ち返り、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の町内会に入会し、町内会の清掃活動や地域学童の通学見守り等の活動に参加している。又、幼稚園のお遊戯会や旭川大学祭への見学等、地元の皆様と交流することに努めている。	町内会に加入し、地域の清掃活動などに参加している。又、地域学童の通学見守り、幼稚園のお遊戯会、大学祭見学などで交流して、地域の住民と一緒に生活する実感を利用者が持てるよう取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の方に参加の協力をして頂いている。福寿草通信を町内会、大学、銀行などに配布したり、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の啓発に取り組んでいる。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、町内会の方やご家族にグループホーム福寿草としての取り組みを報告しており、意見交換を行い、要望や意見等を取り入れサービスの向上につなげている。	年6回開催し、市職員、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、家族等が出席して、活動報告、事故報告、避難訓練の結果報告などを行って、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。全家族に開催案内を出して、出席できなかった家族には、結果を報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や、地域包括支援センターの主催で行われている研修会に積極的に参加している。又、運営推進会議には市の担当者の方や地域包括支援センターの方にも参加して頂き、グループホーム福寿草での取り組みなどについて伝えている。	市担当者とは、運営状況報告、現況報告などを報告して意見交換を行い、運営推進会議出席時にも情報交換、指導を得ている。行政主催の研修会に積極的に参加して協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の排除に関するマニュアルを作成しており、いつでも閲覧できるようにファイルしてある。職員は定期的に法人研修などに参加し、知識と技術を身につけ、身体拘束を行わないケアに関して積極的に取り組んでいる。	身体拘束の排除、虐待防止などの法人の内部研修に参加して身体拘束をしないケアに努めている。利用者が徘徊の状態となった場合は、山びこネットワーク(警察、消防、ハイヤー会社、地域の事業者など)で協力体制ができています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の職員研修で高齢者の虐待について学んでいる。又、職員が各自で虐待防止等の研修会に参加し、虐待が行われないよう日々のケア対応に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の職員研修で成年後見制度についての研修会を行ったり、職員が自ら外部の研修会に参加する機会を設けている。今後、必要とされる事例があった際に活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書に沿って分かりやすく説明することを念頭に置き、利用者やご家族が不安、疑問がないか確認しながら、署名、捺印をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や要望を受け入れやすい環境を整えている。意見や要望があった際には、職員間で共有し対応を検討している。家族の来訪時には面会を行い意見や要望がないか尋ねている。運営推進会議でもご家族を招き意見交換を行っている。	利用者の意見・要望は日常の会話や介護計画作成時の利用者、家族の意向を把握し、又、家族来訪時には会話に心がけ、運営推進会議時に家族からの意見、要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、職員会議で話し合う時間を設けている。職員の意見や提案の聞き入れを行い職員間で検討し、運営、業務改善に努めている。	職員が話しやすい雰囲気、日常の業務、職員会議で意見、要望を話し合い運営に反映させている。職員の意見で業務の改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一同休憩時間をしっかり確保できるよう協力する事に努めている。又、シフトに余裕のある月は有給を消化できるようにし、希望を取れる仕組み作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で職員研修を行っている。職員は積極的に参加する仕組みとなっており、各々がケア向上に努めている。外部研修に関しては、回覧として職員に案内しており、個々で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの交流会や勉強会に積極的に参加し、職員の労働環境や利用者へのサービスの質を向上させるための情報収集を行なっている。又、包括支援センター主催の打ち合わせ会に参加し、他事業所との積極的な意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人に直接会い、今抱えている不安や要望を聞き、ニーズや状況を把握出来る様心掛けている。入居後はそれらに配慮した対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームに入居に至った経緯や不安を聞き、施設サービスに対する家族からの要望を把握し、ご本人・ご家族・グループホーム間の良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴を把握し、ご本人のニーズに合わせたケアが出来る様に心掛けている。相談内容により、必要なサービスとその緊急性を見極め対応している。地域包括支援センター等と連携をとり、相談者への適切な対応がおこなえるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との会話や、日々のケアの中から互いを尊重し合える関係を見出している。そこから学んだり、アドバイスをもらう関係を築いている。一緒に行えることは共に行い、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月各職員が利用者の近況を書いた手紙をご家族宛て送っている。面会時にも利用者の状況や、日々のケアの中での成果や困難に感じていることなどの報告を行いアドバイスや助言を聞き入れている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族がいつでも気軽に来訪できるように面会時間等を設けず対応している。来訪時には居室でゆっくり過ごして頂いている。又、ご自宅やご家族との外泊や外出の他、ご本人の要望に応じて以前利用していたサービス事業所への見学もやっている。	家族や知人が来訪した時は、茶などを出して居室でゆっくり話が出来るようにしている。子や兄弟と、時には友人と食事や懐かしいラーメンを食べに行くこともある。理髪や美容室に出かけたり、家族と墓参り、自宅の畑を見に行くなど馴染みの関係が継続するよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月カンファレンスの中で、利用者同士の人間関係を把握できるよう情報の共有を行っており、利用者一人ひとりが穏やかな生活を送られるように配慮している。又、コミュニケーションをとる事が困難な方については、スタッフが入り関係作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院が原因で契約を終えられた方には、その後の経過等をご家族に定期的にお聞きしたり、お見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方や精神的な病気を抱えている方が日々健やかな生活が送れるようご本人の希望を聞き出す努力している。又、ご家族からも意見を取り入れている。	日々の表情や、会話の中から利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めて職員で共有し、時には家族の情報を得て、その人らしい生活が続けられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にグループホーム福寿草独自のアセスメントシートを用いてご本人やご家族から生活歴や家族構成を聞き情報の把握に努め、職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	独自の生活シートで生活状況、健康状態が把握できるようになっている。生活シート以外にも特記事項を記載する用紙があり必要に応じて記載している。又、申し送りを通じ本人の現在の状況を職員間で共有・把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の際には、ご本人、ご家族、かかりつけの医師の意見をうかがっている。その情報と職員からの意見等を参考に担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。	毎月サービス担当者会議を開催して、利用者、家族、医師の意向を反映させてモニタリングし、3～6か月毎に介護計画を作成して家族の確認を得ている。状況に変化があればその都度見直しを行って、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとの生活記録を作成し、日々の変化やケアの実践、気付いたことを記録し、職員間で共有しケアプランの見直しや実践に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望に応じた個別の外出計画、又、ご家族との外泊や買い物、かかりつけ医の受診対応等幅広くサポートできるよう支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方から野菜を頂き、お返しにホームの畑で採れた野菜をお渡しに行く等の交流を行っている。又、近隣の大学に学園祭や、幼稚園のお遊戯会の見学で地域交流を楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日1回、定時連絡でかかりつけ医や看護師に利用者の体調の報告を行っている。又、体調が悪い時にはかかりつけ医や利用者、ご家族の希望する医療機関を受診している。	利用者、家族が希望するかかりつけ医を受診している。入居のとき病気の状況、通院について情報を引き継ぎ対応している。職員が通院支援を行う場合には受診結果を家族に報告、毎月の手紙にも本人の状況について記載することになっている。母体法人が医療機関なので連携が取れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月一回協力医療機関の看護師の訪問があり利用者の体調等状況報告を行っている。又、法人内の協力医療機関にいつでも連絡ができる体制をとり、体調が悪い利用者に適切なケア対応をすることができるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関の説明をご家族と同伴させて頂いている。入院中はできるだけ、お見舞いに行くようし、病院関係者とも随時情報交換できるように努めている。又、退院時のご本人の状態確認やホームへ帰設された後の支援方法等、より良い形の検討を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『重度化した場合における対応に係る指針』を策定し、早い段階での家族及び近親者の意思の確認を含め、グループホーム、医療機関、家族がチームとして支援に取り組めるよう努めている。	契約時「看取り介護に関する指針」に基づき、重度化した場合や終末期のあり方について利用者、家族に説明し確認を得ている。重度化が認められた段階で、本人、家族の希望、医師の意見を聞いて、希望に添えるよう支援している。今までに3件の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例である法人内の職員研修にて、職員一同介護事故対応について学んでいる。又、緊急時対応マニュアルを作成しており、職員は周知している。事故発生時の対応は、壁に提示してあり、事故が起こった際に、適切な行動がとれるようにしている。ヒヤリハットや介護事故を振り返り、職員会議で話し合いをし今後の対応に活かせるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定例の職員研修にて、災害時の対応について職員一同学んでいる。又、災害発生時マニュアルを作成しており職員は周知している。消防署の指導により、避難場所や経路の確認をしている。避難訓練は年2回実施している。運営推進会議などでも火災発生時の対応として協力依頼をしている。	年2回、地域住民の参加、消防署の協力を得て、夜間想定での避難訓練を実施している。地域町内会関係者とは、緊急連絡網が作成されている。避難場所は旭川大学が市の指定避難場所に指定されている。	・災害時は混乱が予想されるため、災害時の役割分担を、地域町内会関係者にあらかじめ依頼しておくことが望まれる。また、通信網が破壊された時を予想して、一時避難場所を家族等へ予め通知することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちや尊厳を大切にし、さりげない心配りやケアを行っている。又、排泄の誘導は他の人に気付かれないように配慮しながら、声掛けをするよう努めている。	接遇、プライバシーへの配慮などの法人の内部研修に参加し、言葉づかいなど、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。入浴後の着替え、排泄誘導等については、同姓介助を基本としている。特に排泄誘導については、周りの利用者に気づかれないよう声かけ等に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が答えやすく選びやすい働きを行い、言葉や表情の変化で何を望んでいるか考慮しながら、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の起床、就寝、食事など、それぞれの日常生活のリズムに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回～2回、訪問美容師が来るようになっており、ご本人に希望を聞き申し込みをしている。カット・パーマ・毛染め・顔そりができ、女性に化粧品もして下さる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや料理の盛り付け、食器拭きなどが出来る方には行っていただいている。職員が食事を摂る際は利用者と同じテーブルで会話をしながら食事をしている。	献立、おかずについては外注し、御飯、味噌汁、行事食は職員で作っている。利用者は盛り付け、食器拭きなどを能力に応じ行っている。畑で採れたトマトが食卓を飾り話題にしながら楽しい食事となっている。外食ツアーにも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせ、お粥やキザミ食など個別に対応している。又、入居者の食事量や水分量を個別に記録していて職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々、口腔内の清潔保持に努めている。毎食後利用者の個別の能力に応じて見守り、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自らトイレに行かれない方は、時間帯に応じて排泄の声掛けを行っており、極力失禁なくトイレで排泄できるようにしている。	個々の排泄パターンを把握して、表情や態度に気をつけながら適時に声かけなどで誘導し排泄の自立に努めている。声かけに注意をしてトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取への配慮を行っており、日々排便を促しやすい状況を作っている。又、状況に応じて主治医と相談して内服薬による排便調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回行っており午前・午後で好きな時間帯に入って頂いている。夏の暑い日はいつでも入浴できるよう準備し、必要に応じシャワー浴に対応している。又、冬の寒い時は足元や浴室を暖めてから入って頂いている。	基本的に、週2回、火曜日、金曜日に入浴支援を行っている。湯の温度、入浴順にも配慮し、「ゆず湯」などの入浴剤を使って楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠や体調の悪い方には、居室や本人が落ち着ける場所(なじみのソファ等)で休息して頂くよう支援を行っている。就寝時間は本人のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の作用・副作用について把握しており服薬内容に変更のある場合、体調の変化に注意して観察を行っている。又、誤薬のないように、薬を確認する場合は職員2人以上で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた日常生活での役割を見出し、それぞれ役割を分担する事で張り合いのある生活を送れるようにしている。日常生活においての役割として食事に関する手伝い、掃除、洗濯物たたみ等を行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時等、ご本人が望む時は近所を散歩に出かけている。又、ドライブに行ったり季節の花々を見に外出する等の支援を行っている。地域との関わりとして近くの大学の大学祭や、幼稚園のお遊戯会にも見学しに行っている。	散歩をしたり、外気浴を取り入れた外での体操、白鳥見学、田んぼアートの見学など自然とのふれあいを多く取り入れた外出となっている。外食、ドライブ、家族と外泊、墓参りなどにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお金を預かっている方で、買い物ができる方は一緒にお店まで行って購入する等支援を行っている。お店に行けない方には、希望の品を職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したい方は、家族や知人の日中で都合の良い時間帯に連絡させて頂いている。又、知人やご家族からの手紙や小包は本人に開封して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには花や季節に合ったディスプレイ、又、利用者の作品等を飾りっている。大きな窓からは適度に明るい光が差し込み穏やかに過ごせるようにしている。	大きな窓からは光が差し込み明るく、快適に暮らせるよう適度に温・湿度調整し、行事の写真、季節の花のぬり絵など利用者の作品を飾って、季節ごとに室内の模様替えを行ったり、窓から畑を眺めるなど自然を楽しみながら思い思いに居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの好きな方はテレビの見やすい席に座ったり、気の合った入居者の隣に座って話したり、その方の思いで過ごせる環境づくりをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や好みに合った居心地よく過ごせる環境づくりに努める為、居室には、本人の家具等を持ち入れて頂き、ご家族等の写真を飾るなどの配慮を行っている。	馴染みのテレビ、家具などを持ち込み、整理たんすの上には、思い出の家族写真や観光地でのこけし人形等を飾ってより家庭に近い雰囲気居心地よく過ごせるよう工夫している。位牌を配置して供養している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	本人の発言や行動を認識し、混乱や失敗につながらないように、見守りや確認を行いながら安全で自立した暮らしが実現できるよう、その人らしい生活を送れるよう支援している。		